



社員の成長こそ企業の成長。 健康経営の導入で 社員がいきいきと輝ける場を育む

北陸通信ネットワーク株式会社

意識変革をベースとした 健康経営に着手

北陸地域の企業等への光回線の敷設により、高度なセキュリティが担保された高速・高品質な通信環境を提供する北陸通信ネットワーク。昨今、通信サービスは低料金化の傾向にあり、収益確保が困難になっていることから、顧客ニーズを捉えた付加価値の高い新たなサービスの創出が同社の課題だ。そこで、社員の心身の健全化と自律性を促すとともに、社員がやりがいを発見し、自らの意志で持てる力を最大限発揮できる会社に改革するため、トップダウンで、経営方針として「意識変革(やりがい・いきいき働く)」を掲げ、これをベースとして健康経営に取り組むことを全社員に発信した。

その後、社員の自律ややりがいにつながる、ボトムアップによる改革を推進するため、各部署から集められた中堅社員を中心に「健康経営推進プロジェクト」を発足。社員のニーズを把握するために、各メンバーが所属する部署の社員を対象にヒアリングをしたところ、想定していなかった多種多様な意見や要望が数多く集まった。それらへの対応について、メンバーで議論する

中で、「言いたいことが言えない雰囲気現場にあるのではないか」、「意見や提案を言いやすい環境が必要ではないか」といった改善すべき課題に気付いた。この気付きから、社員の心身の健全化を目的とした「改善提案制度の構築」をミッションの1つに位置付け、メンバーで現在検討している。「改善提案制度により、『自分の意見で会社が変わった』という成功体験を持つ社員が増えれば、もっと活気のある会社になる」とプロジェクトメンバーの上田貴志さんは強調する。

また、本社のリフレッシュルームの改装に関する企画立案もミッションの1つである。全社員に活用され、生産性の高いメリハリのある働き方ができるように、社員の意見を聞きながら進めているところだ。

意識変革に向け 長期的に取り組みを継続

同社はメンタルヘルスキューアの取り組みも開始し、メンタルヘルス・マネジメント®検定試験(大阪商工会議所主催)の受験を社員に推奨。この検定は、社員の心の不調を未然に防ぐために、社内での役割に応じて必要なメンタルヘルスキューアに関する知識や対処方法を習得するものである。平成30年度は管理監督者向けのⅡ種(ラインケアコース)に35名(役職者の50%)が合格。また、心の不調をきたした社員の職場復帰支援プログラムも策定。プロジェクトメンバーの山本明希子さんは「一度心に不調をきたすと100%の状態に戻るまでに相当な時間が必要。大事な社員が心の不調で休

職した場合に備えて、職場復帰のための支援体制の整備は会社としての責務」とその重要性を話す。

同社がメンタルヘルスキューアの取り組みを推進する目的は、単にリスクマネジメントのためだけではない。社員が互いに思いやりや優しさを持って接し、社員を大切にす風土を会社に醸成するというポジティブな目的の達成まで視野に入れたものだ。

さらに、全社員を対象としたキャリアデザイン研修とキャリアコンサルタントによるカウンセリングも始めた。自分のキャリアとその能力を発揮する機会に気が付き、主体的な行動がとれるようになることで、会社の発展につなげたい考えだ。次年度には、社員の年齢、就業年数、役職等の節目にコンサルティングを受けられる「セルフ・キャリアドック制度」の導入を予定している。

講座の総合アドバイザーを務めた渥美由喜さんの「人の意識がいきなり180度変わることはありえない。少しずつ変わっていくもの」という言葉が印象に残っていると上田さんは話す。いつの日か「会社が変わった」という声が社員から上がるように、同社ではトップダウンとボトムアップの両輪で覚悟を持って取り組みを長期的に継続していく。



多様な人材が共存する「ダイバーシティ」の観点も重視していると語るプロジェクトメンバーの上田さんと山本さん

DATE

所在地 金沢市西念1-1-3
コンフィデンス金沢6階

代表者 松島 英章

設立 1993年

従業員数

169名(男: 148名/女: 21名)

事業内容

電気通信事業法に基づく電気通信事業